

インドネシア・スラバヤにおけるカンポン改善事業の展開に関する考察

日大生産工 ○古田 莉香子

1. はじめに

1.1 背景と目的

インドネシアのスラバヤには、カンポンと呼ばれる住居地区がある。都市部の中にありながら、村的な要素を持つ住居集落であり、いわゆるインフォーマル居住地である。カンポンは時代による影響を受けながらも多くの課題はあるものの、独自の歴史や文化、コミュニティのかたちを保持し、生活様式を変えることなく今日までその形態を残している非常に希な住居地区である。その背景として、インドネシアで展開されてきたオランダ植民地期より続くカンポンの環境改善のための取り組みKampung Improvement program（以下KIP）がある。

オランダ植民地期より行われているKIPは、時代によりその方針を変えながら行われてきている。スハルト体制の崩壊と共に、KIPは一度、役割を終えたがその後、特にスラバヤにおいては2000年以降もかたちを変え、新たに多様な展開がなされている。

インドネシアの大きな社会情勢の変動の中でも、これまでKIPは継続的に展開し続けてきていることに着目し、本稿ではKIPの各カンポンでのこれまでの展開について考察することを目的とする。

1.2 研究の方法

KIPの事例については文献資料¹⁾²⁾³⁾⁴⁾を基に、時系列で施策の展開を整理する。現在までの取り組みについては、現地視察とヒアリング調査を行い、活動の実態および初期のKIPから現在までの施策の継続についてまとめ考察を行う。調査は2017年12月22日～27日、2018年8月17日～19日に行っている。また、スラバヤ市が行う施策については、市が公開している資料データ^{注1)}を基に文献調査を2015年～2022年において継続して行っている。

2. KIPの変遷

2.1 行政施策としてのKIPの展開

1969年に行政施策として開始したKIPは2007年までの間、スラバヤにおいて全市的にカンポンの環境改善が進められてきている。Fig. 1にこれまでにKIPが行われ、かつ積極的な活動の取り組みを行うカンポンの分布を示す。さらに、Fig. 2にFig. 1で示すカンポンのKIP展開と現在のカンポンの特徴を示す。

カンポンの立地や時代によって取り組むべき課題は様々であり、またカンポンの質もさまざまではあるが、その環境は大きく改善されてきたといえる。

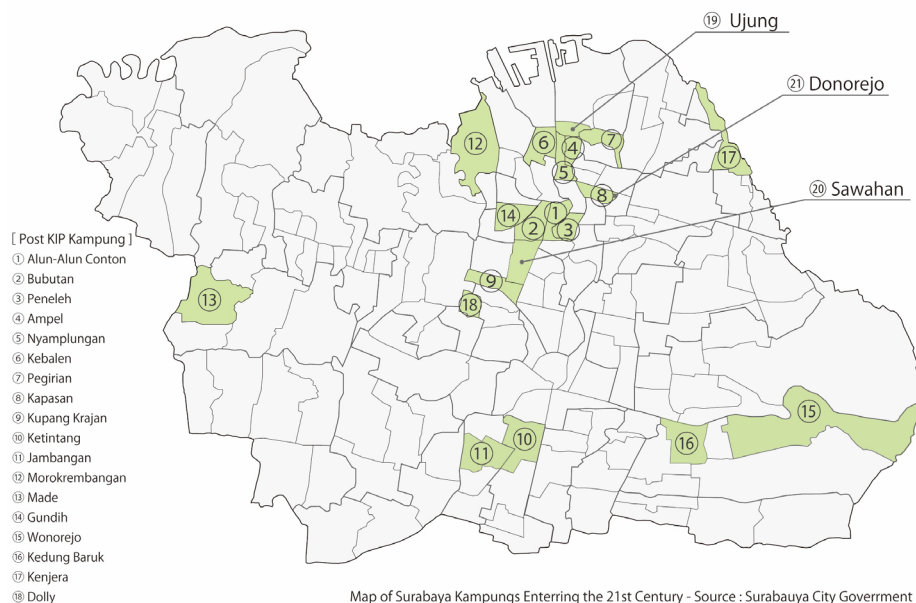


Fig1. KIPを実施しているカンポンの分布

A study on the Development of Kampung Improvement Program
in Surabaya, Indonesia.

Rikako FURUTA

まず、1969年から1975年にかけては、それ以前にまで行われていた環境改善の取り組みが行政施策として行われ始める。これがW.R.Supratman KIP^{注2)}である。これらの活動はスラバヤ市のカンポンを対象に行われ始めるが、この活動が国際的な関心を集め、1975年から1989年までは世界銀行からの融資によりWord Bank KIPとして実施される。都心部のカンポンを中心にKIPが実施されることになる。KIPはその後、インドネシア情勢の不安定により一時停止をすることになるが、1990年代末からは、Comprehensive KIPと呼ばれるKIPが実施される。これは、これまでの物理的な環境改善だけでなく、職業訓練や小規模事業支援などが行われたKIPで、環境、経済、社会

全体の強化を掲げ、生活水準の向上が目標として行われた。

一般的に多くのインフォーマル居住地では、都市化の過程や行政施策などにより、クリアランスされることで環境改善がはかられ、地区の形態から既存のコミュニティまでのすべてが一掃されてしまう。しかし、スラバヤで展開されたKIPは居住者の生活構造を大きく変えない手法であり、コミュニティベースで行われ、また、ボトムアップが前提で、住民参加が積極的に採用されている。

2.2 ポストKIPの取り組み

行政施策として展開されてきたKIPは2007年に終了する。その後、KIPは2010年スラバヤに新たな市長が就任することで、次の展開へと

No.	Kampung	1969-1975 W.R.Supratman KIP	1975-1989 World Bank KIP	1999-2007 Comprehensive KIP	2010- 現在 Post KIP	kampung community
①	Alun-alun contong	W		J B	C S H	Former site of Kraton Heritage kampung
②	Bubutan	W	I III	J B P	C E S H	Kampung Lawas Heritage kampung
③	Aeneleh	W			C H	Historic Traces Housing Heritage kampung
④	Ampel	W		P	C S H	Ampel Mpsqu Heritage kampung
⑤	Nyamplungan	W	III	P	C S H	Muslim District Heritage kampung
⑥	Kebalen	W	II III		C H	Preservation of ancient folk houses Heritage kampung
⑦	Pegirian	W	III	J B P	C S H	Arab kampung Clean and Green
⑧	Kapasan	W		P	C S H	Chinese kampung Small business
⑨	Kupang krajan	W	II	J B P	C S H	Lontong kampung Small business
⑩	Ketintang	W		P	C H	Old Heritage Kampung Heritage kmpung
⑪	Jambangan	W		J B P	C S	Eco tourism kampung Clean and Green
⑫	Morokrembangan			J B	C S H	Industrial kampung Small business
⑬	Made				C S	Fringe kampung Small business
⑭	Gundhi	W	II		C S	Recycle kampung Clean and Green
⑮	Wonorejo	W		J B P	C E S	Eco tourism kampung Small business
⑯	Kefung baruk			P	C E S	Mangrove kampung Small business
⑰	Kenjeran				C E S	Fisheries kampung Small business
⑱	Dolly	W		P	C E S H	Reformed kampung Small business
⑲	Ujung	W	II III		C E S	Urban type kampung Education
⑳	Sawahan	W	III	J B	C E H	High desity kampung Education
㉑	Donorejo	W	II III	B P	C E S	Downtown kampung Education
凡例		W.R.Supratman KIP W	World Bank KIP I urban I II urban II III urban III	ComprehensiveKIP J job training B business Support P environmental Improvement (PLP)	Post KIP C clean & green E education S small buisiness H helitage	注) No.19・20・21の3つの カンポンはカンポンの変 容の調査を行ったカンポ ンである。

Fig.2 KIPのプロセスとポスト KIP の展開

発展する。これらのKIPはこれまでの行政施策としてのKIPの取り組み内容を踏襲し、さらにカンボンの現状や特性に合わせたかたちで、実施されている。そこで本稿では2010年以降の取り組みについてはポストKIPと位置付ける。

ポストKIPでは大きく4つの観点で取り組みが進められている。1) スモールビジネスの取り組み、2) 教育に関する取り組み、3) クリーン&グリーンに対する取り組み、4) 歴史的な取り組みの4つである。

3. KIPからポストKIPへの展開

こうしたポストKIPを積極的に行っているカンボンがFig.1に示す21のカンボンである。Fig.2に21のカンボンについて、これまでのKIPからポストKIPの取り組みへのプロセスを示している。いずれのカンボンも、KIPに継続して取り組んでいることがわかる。Fig.2に示すように時期は様々であるが、W.R.Supratman KIPに17のカンボン、およびWorld Bank KIPには9のカンボンにおいて、環境改善のためのインフラ整備が実施されている。

W.R.Supratman KIPは都市部のカンボンを対象に行われたKIPであり、World Bank KIPはさらに限定的に、都心部のカンボンを対象に行われている。そのためFig.1およびFig.2に示す、⑫・⑬・⑯・⑰のような、農村部などの郊外のカンボンや沿岸部のカンボンではこれらのKIPの取り組みは行われてきていない。

また、総合的KIPは15のカンボンで行われている。総合的KIPによって、物理的な環境改善以外に職業訓練や事業に対する支援が行われたことで、KIP終了後もポストKIPとして継続的に活動に取り組んできた実態がわかる。特に、ポストKIPのクリーン&グリーンの取り組みは、21のすべてのカンボンにおいて実施されているが、これは行政施策として行われていた環境改善で、緑化に対する施策を行っていたためであると考えられ、各カンボンでは継続して取り組みを行っている。

また、スモールビジネスの取り組みについても同様に、総合的KIPにおいて事業支援が行われ、カンボンでは継続的に取り組みが行われていることがわかる。

一方で、W.R.Supratman KIPやWorld Bank KIPに取り組んできていないカンボンにおいてもポストKIPに取り組んでいることがわかる。ポストKIPでは、コンテストを定期的に行い、カンボンの自主的な取り組みを評価するために、積極的に取り組みを行うカンボン

に対して表彰を行っている。こうした表彰制度によって、各カンボンの取り組みは他のカンボンや他の自治体、さらには国外にも大きな影響を与えてきている^{注3)}。こうした実態があるため、これまで行政施策が実施されていないカンボンでも周辺カンボンの影響により、ポストKIPとして活動が取り組まれていると考えられる。

ポストKIPは現在、カンボンのコミュニティが主体となり、活動や取り組みが多様に展開し行われている。基本的に、RT（隣組）やRW（町内会）^{注4)}が単位となって取り組まれている。こうした、コミュニティベースの取り組みが可能であるのは、これまでにKIPがコミュニティを対象に行った施策であり、内容は多様に展開してきているが、どの施策においても、その対象がカンボンのコミュニティから変わらなかったことが大きく影響し、カンボンにおいてコミュニティがこれまでに継続して存在していることが考えられる。

4. まとめ

スラバヤにおけるKIPの展開について本稿で明らかにしたことを以下にまとめる。

- ・スラバヤで実施されてきた居住環境整備であるKIPは、居住者の生活構造を大きく変えない手法であり、住民参加が積極的に採用されている。KIPは一貫してカンボンのコミュニティを対象とする施策であることから、カンボンのコミュニティがこれまで安定的に維持されてきた理由として考えられる。

- ・KIPからポストKIPへのプロセスより、KIP終了後もコミュニティベースによる取り組みが継続して実施されている。このことから、KIPがコミュニティを対象とする施策展開であったことが、コミュニティの活動を支援し、コミュニティの成長または自立を促してきているといえる。

以上のように、スラバヤで展開されてきたKIPはカンボンのコミュニティの持続性に大きく関係していることが明らかである。

特に興味深いのは、そのコミュニティの起源が日本からもたらされた隣組制度であることである。今後はカンボンのコミュニティの実態を調査し、日本の居住地との比較により、コミュニティの持続性について考察することを課題とする。

注

注1) <https://surabaya.go.id/> にて公開しているオープンデータを参考に施策の実態について継続して調査を行っている。

注2) スラバヤ出身のインドネシア国歌を作曲した作曲家W.R.スプラトマンに因んで命名された。ジャカルタでは,A.サドキン市長によって,1969年にKIPが開始される。ジャカルタの場合,国民的英雄の名にちなんで,M.H.タムリンKIPと呼ばれる。

注3) カンボン・クパン・クラジャン(Fig.1・2⑨)はロントン製造のための協同組合を設立し事業展開を行い,その業績によってスラバヤ市の協同活動コンクールで最優秀賞を獲得。受賞後,多くの視察団がカンボンを訪れ,住民の代表がバンコクで開かれたHABITATの会議やカンボジアに招待されたりしている。

注4) カンボンの規模によってRTやRWの世帯数は様々である。但し,RTは基本的に街路を挟んだ両側の住戸にて形成される,いわゆる両側町である。

参考文献

- 1) Johan Silas, PROGRAM PERBAIKAN KAMPUNG DI SURABAYA 1969-1982, 1982
- 2) The CLEAN and GREEN KAMPUNGS of SURABAYA - Kampung Improvement Programe supporting Housing by People Nonenber 1991, Kota Surabaya
- 3) MUSYAWARAH PERENCANAAN PEMBANGUNAN KOTA SURABAYA TAHUN 2016 Surabaya,30 Maret 20016
- 4) Pemerintah Kota Surabaya, “The Kampung of Surabaya Entering the 21st Century Planning and Revitalization of Surabaya Kampung”, City Development Planning Board,2012
- 5) 布野修司:インドネシアにおける居住環境の変容とその整備手法に関する研究ーハウジングシステムに関する方法論的考察ー,学位請求論文(東京大学),1987
- 6) 布野修司,高橋俊哉,川井操,チャンタニー・タランタナット:カンボンとカンボン住居の変容(1984-2006)に関する考察,

日本建築学会計画系論文集,第 74 巻,第 637 号,pp.593-599,2009.3

- 7) 古田莉香子,山岸輝樹,篠崎健一,広田直行,布野修司:スラバヤのカンボンとルーマー・カンボンの変容(1984～2018)に関する考察,日本建築学会計画系論文集,第 86 巻,第 790 号,2529-2540,2021.12,DOI <https://doi.org/10.3130/aija.86.2529>